|  |  |
| --- | --- |
| 労働法の基礎と問題解決手段  ～バイトでの不当な扱いへの対処法～ | |
| ねらい：誰しもが労働問題に直面する可能性があることから、ワークルールの基礎知識を身に着けるとともに、労働組合や弁護士などの専門家に意見を聞く重要性を学ぶ。 | |
| 授業スタイル | グループワーク  説明 |
| 配当時間数 | ５０分 |
| この授業で身につけて欲しい力 | ・労働者としての権利を行使する力。  ・専門家に相談する力 |
| この授業で理解させたいこと気づかせたいこと、身につけて欲しい知識等 | ・誰しもが労働問題に直面する可能性があること（具体的には、ブラック企業、ブラックバイト、過労死などに直面する可能性があること）  ・１人で抱え込まずに、労働組合や弁護士などの専門家に意見を求めた方が冷静に対応できること  を学んでもらう |
| 授業概要 | ①ワーク：風邪で当日欠勤をすると罰金を取られたというケースについて、是非を議論する  ②説明：労働条件は契約で定めること、契約で定めた事項でも法律違反は許されないこと、労働者を保護する法律が整備されていること  ③ワーク：賃金未払いに関する事案について、労働者側としてどのように対応するかを議論する  ④説明：状況改善の手段として、労働基準監督署、労働組合、弁護士等の専門家への相談が有効であること  ⑤まとめ：労働問題に直面しても、会社の主張を鵜呑みにしたり、諦めてしまうと、状況が改善しないことを伝えた上で、専門家への相談を呼びかける |
| 使用する教材 | ・グループワーク用の紙 |
| 協働する外部人材 | 労働法等に詳しい者（必須ではない） |
| 学習の評価の方法の例 | ワークシートによる |
| この授業案からの発展的な学習の可能性 | ・法違反を是正させるための手段について  ・労働組合の意義と役割 |

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 授業の流れ | | | |
|  |  | 学習内容 | 指導上の留意点 |
| 導入 | １０分 | 〇自己紹介  名前を板書し、労働者側の労働事件を扱っていることを説明する。  〇導入  労働相談で多い事例を紹介。  ・バイトでケーキや恵方巻を買わされる  ・損害賠償で脅されて辞められない  ・電通過労死事件を紹介（大企業でも安心できない） | 弁護士の仕事や講師個人に質問を募集。  「同じ状況は自分の身に起こりうる」ということを感じてもらえるよう働きかける。  身近なアルバイトの問題を盛り込む。 |
| 展開①  （グループディスカッション） | １５分 | 風邪で当日欠勤をすると罰金を取られたというケースについて、是非を議論させる（５分）。  議論の後、グループ毎（５，６人のグループに分ける）に議論の内容を発表してもらい、解説を加える（１０分）。 | 議論状況に応じて適宜講師が参加する（ヒントを与える）。  ①労働条件は契約で定めること、②契約で定めた事項でも法律違反は許されないこと、③労働者を保護する法律が整備されていることの３点を中心に説明する。 |
| 展開②  （グループディスカッション） | ２０分 | 賃金未払いに関する事案を読んで、是非を検討すると共に、労働者側としてどのように対応するかを議論させる（１０分）。  議論の後、グループ毎に議論の内容を発表してもらう。生徒に労働者役を演じてもらい、実際に賃金の支払いの交渉をしてもらう。解説を加える（１０分）。 | 議論状況に応じて適宜講師が参加する（ヒントを与える。）  実際の交渉を体験してもらい、ワークルールをより身近に感じてもらうと共に、状況改善の手段として、労働基準監督署、労働組合、弁護士等の専門家への相談が有効であることを説明する。 |
| まとめ | ５分 | 授業内容のまとめを行う。  最後に、労働問題に直面しても、会社の主張を鵜呑みにしたり、諦めてしまうと、状況が改善しないことを伝えた上で、専門家への相談を呼びかける。  時間があれば、過労死問題についても触れ、労働者を使い潰す企業から身を守る必要性をアピールする（レジュメ４ページ）。 | フローチャートを作成し、状況改善のためのイメージを持ってもらう。 |

**ワークルールを学ぼう**

**はじめに**

**１．自己紹介**

**２．弁護士の仕事について**

**３．本日お話しする内容**

（１）身近にある労働問題

（２）どのように自分の身を守るか

（３）ワークルール（働くときのルール）について

**◆マンガで学ぶ労働問題（画像【ブラックジャックによろしく　佐藤秀峰】）**

****

**ダイアグラム

中程度の精度で自動的に生成された説明**

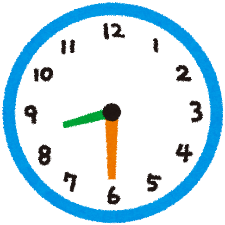
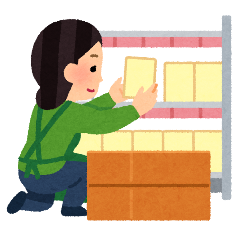
****

**【ケース１】働く条件はどのように決まる？？**

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| コンビニで働くＡさんのケース  Ａさん「すみません、風邪をひいてしまい…、今日のバイト入れません」  店　長「仕方ないな…。罰金５０００円を次の給料から引いておくね。」  Ａさん「えっ！？　罰金ですか…？」  店　長「そうだよ。契約書にもちゃんと書いてあるでしょ！？」  Ａさん「は、はぁ…」  家に帰ったＡさん、契約書を見てみると…   |  |  | | --- | --- | | 契約書 | | | 雇用期間 | ○○ | | 就業の場所 | ○○ | | 仕事内容 | ○○ | | 就業の時間 | ○○～○○ | | … | … | | 給与額 | ○○円 | | その他 | **欠勤の場合の罰金**  **当日に連絡　５０００円**  **前日に連絡　３０００円**  **２日以上前に連絡　なし** | | 年　月　日  　　　　　会　社　○○コンビニ  　　　　　労働者　Ａ | |   Ａさん「ほんとだ、確かに書いてある…。それにサインしちゃってるし…。」 |

**【ケース２】給料払って！！どのように行動する？？**

|  |
| --- |
| スーパーの店員として働くＡさん。勤務開始時間はスーパーが開店する９時とされていました。しかし、スーパーが開店するまでの間に、制服への着替え、店内の掃除、商品の品出しを行うように指示されていたため、開店の３０分前の８時３０分頃には店に到着していました。  店長も、この様子を見てみぬふりをしていましたが、８時３０分から９時までの３０分間の給料は支払われていません。 |



開店

**過労死問題を知ろう**

**◆“過労死”について知る**

|  |
| --- |
| 働き過ぎや仕事のストレスによって脳・心臓疾患（脳・心臓の病気）や精神障害（心の病気）になり命を落とすことがあります。これを“過労死”といいます。特に２０代については「勤務問題」を理由とする自殺の割合が高くなっています。 |

**◆よくある誤解**

|  |
| --- |
| 〇辞めればいいのでは！？  まじめで責任感のある人ほど、なかなか辞められない現実があります。また、会社に退職を申し出ているのに、なかなか辞めさせてもらえないという相談も多いです。  〇名前を知っている大企業に入社すれば大丈夫！？  　誰でも名前を知っている大企業でも過労死が起こっています。“大企業なら安心”とはまだまだ言えません。  〇過酷な働かせ方をさせているのは経営が悪化しているからでしょ！？  　そうとも限りません。労働者を長時間働かせて、逆に利益を得ている会社もあります。急成長中の会社で過労死が起こることも珍しくありません。 |

**◆“命こそ宝”**

|  |
| --- |
| 「仕事のための命ではなく、命のための仕事」「命こそ宝」。過労死で父親を亡くした学生の言葉です。この事件に限らず、若者が命を落とすケースが後を絶ちません。若者を使いつぶす会社から身を守るためにどうすればよいか、社会に出る前に学ぶ必要があります。 |

**ワークシート**

**【ケース１】コンビニで働くＡさんのケース**

**１．Ｑｕｅｓｔｉｏｎ**

◆Ａさんは、実際に罰金５０００円を給料から引かれてしまいました。

これって問題あり！？問題なし！？

|  |
| --- |
| （理由も考えてみましょう） |

**２．ケース１のポイント**

⑴働く条件は契約で決める。契約の内容は【①　　　　　　】で決めるのが基本。

⑵契約書などの書類にサインする前にしっかり内容を確認する。

⑶契約で決めたことでも【②　　　　　　】はダメ！

⑷契約の内容は【③　　　　　　】で確認する（トラブルを防ぐ！）。

**３．考えてみよう**

会社は絶対に法律を守ってくれるのでしょうか？？

法律に違反していたらすぐに誰かが助けてくれるのでしょうか？

トラブルがあった時にどのような行動をとるべきかを考えてみましょう！

**【ケース２】スーパーの店員として働くＡさんのケース**

**１．Ｑｕｅｓｔｉｏｎ**

⑴８時３０分から９時までの給料は支払われなければならない？？

|  |
| --- |
| （ア）　支払われなければならない  （イ）　支払われなくてもよい  （ウ）　法律的には支払わなければならないが契約で勤務開始時刻が９時とされている  場合には支払われなくてもよい  （エ）その他（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　） |

⑵⑴で給料が支払われなければならないとした場合、支払われなければならないのはいくら？（※時給を１０００円とします。）

|  |
| --- |
| １日分　　【④　　　　　　円】  １週間分　【⑤　　　　　　円】（１週間で４日働く場合）  １年分　　【⑥　　　　　　円】（１年は約５２週間）  ○従業員が５人いたら全員でいくら？？ |

⑶この３０分間の給料を払ってもらいたい場合、店長にどのように言いますか？？

|  |
| --- |
|  |

⑷１人で店長と話をする以外に何か良い方法はないでしょうか？？

|  |
| --- |
| （実際に１人で行動するのは難しい… その理由も考えてみましょう。） |

**２．ケース２のポイント**

⑴１人では言いにくいことでも【⑦　　　　　　　　】であれば言いやすい

⑵【⑧　　　　　　　　　】という団体がある

会社と【⑨　　　　　　　　】をして法律違反や労働条件を改善するための団体

【⑩　　　　　　　　】で会社と話し合いをする権利が認められている

※基本的に無料で相談を聞いてくれます。

⑶法律を守らない会社を取り締まる【⑪　　　　　　　　】という機関がある

※相談無料です。

⑷働く時のトラブルは法律の専門家である弁護士に相談することも有効

※できれば労働者側の労働事件に強い弁護士に！（初回相談無料の弁護士もいます。）

●著作権

日本労働弁護団（〒101-0062　東京都千代田区神田駿河台3-2-11 　連合会館4階　TEL：03-3251-5363 　FAX：03-3258-6790）

●使用条件

* この教材を複製し、他者に無料で配布することはできますが、他者に販売することはできません。
* この教材のうち、法律解釈および解説部分については原則改変できませんが、それ以外の部分については、利用者の方々が適宜改変していただいて結構です。
* 頒布するこれらの教材のすべてのコピーに、これらの使用条件のコピーを添付し、これらの資料を頒布するすべての人に、ここに記載されている使用条件を守る義務があることを知らせるものとします。

●お願い

この教材を利用した授業経験・授業実践についてフィードバックをしていただければ幸いです。

連絡先：[nihonroudoubengodan@gmail.com](mailto:nihonroudoubengodan@gmail.com)